

# 「勇気ももらえた」

「声を上げる勇気ももらえた」。戦争法反対で立ち上がった若者が思いを語り合い、それを聞いた若者に感銘を与えています。戦争と平和の資料館「ピースあいち」(名古屋市名東区)が8日、シールズのメンバーを招いた集いには中学生から戦争経験者まで約100人が参加しました。

報告に立ったのは東京 選へ野党がまとまれるよから駆け付けたシールズう、はたらきかけたい」の元山仁太郎さん(24)、と表明しました。シールズ東海の岡歩美さん(24)、平和を考えあうないもの同士が集い、シールズ東海を立ち上げ、「高校生未来プロジェクト」の実行委員長を務めた日比野和真さん(3年)。「学習会もして街頭でアピールしていきます」と続きました。「戦後80年は迎えられるのだろうか」と動きだしたという日比野さんは「同世代の無関心を関心に変えた」と意気込みました。戦争体験の語り手の鈴木忠勇さん(84)が発言を壊しているとき、参院し、若者の活躍を「平成

## 無関心変えたい

元山さんは沖縄県宜野湾市出身。沖縄戦をたまたった祖父の銃痕を触った身体的記憶が活動の原点と語り、「安倍政権が立憲主義など日本の根本を壊しているとき、参院

## 戦争法反対 若者が語り合う



報告する元山さん(左端)と参加者=8日、名古屋市名東区の「ピースあいち」

紹介しました。

声を出さないと話を聞いてみようと参加した若い世代にも共感が広がりました。「行動してくれている人がいるなら私はいいかな」と思っていた女子中学生(3年)は親に誘われ参加しました。話を聞いて「間違ったことには声を出さないと、また戦争になってしまいかもしれない」と前を向きました。

ツイッターで知って来た女子学生(20)も、これまでデモに参加したことはありませんが、「行動している人の中には流されてやっている人もいる」と思っていたけれど、個人それぞれが思いをもってやっているのわわかりました」と語り、「友人に知らせて問題を身近に感じてもらうきっかけをつくりたい」と話しました。

維新だと表現し「平和を永遠のものに」とエールを送りました。屋芸芸大学3年の森本瑞生(みずき)さんも発言。「これまで自分のこと必死で、世の中のことを考えられなかった。

鈴木さん含め戦争体験者8人の写真と思いをまと

安本法制を文化祭で取り上げた東邦高校の生徒や安保関連法に反対するママの会からの発言もあり、各世代から「勇気ももらえた」などの感想が寄せられました。

## 名古屋「ピースあいち」が集い

1/13  
未読